

石川県羽咋市における トキ放鳥前段階の市民意識調査 ～本州初の野生復帰に向けた社会的受容の現状～

本田裕子

大正大学 地域創生学部公共政策学科 教授

(要旨) 2026年5月に本州初となるトキの放鳥が石川県羽咋市内で実施される。本報告は、放鳥を控えた2026年1月末から2月にかけて羽咋市民を対象にアンケート調査を実施し、結果をふまえて、トキの野生復帰の本州展開における社会的受容の現状を考察するものである。調査の結果、放鳥に対する賛成の割合は7割を超え、トキに対する肯定的な認識が確認された。先行事例として佐渡市で実施した放鳥前段階の調査報告と比較すると、羽咋市では自然環境の復元を含めた地域活性化への期待が高いことが窺える。一方で、見物客増加に伴うマナー悪化の懸念も示された。トキの放鳥に向けては、すでに作成されている観察ルールの周知徹底やトキ保護に関する環境教育・啓発活動の実施、そして、トキの放鳥や生息に関わる他地域との広域的な連携の推進が重要である。

キーワード：トキ、野生復帰（放鳥）、住民意識、アンケート調査、石川県羽咋市

1. はじめに～本研究の背景・目的～

国の特別天然記念物であるトキについて、2008年の新潟県佐渡市での放鳥開始以来、野生復帰事業が着実な進展を見せてきた。2024年12月末時点で国内の野生下における推定生息数576羽のうち多くが佐渡島内に生息しており、「朱鷺と暮らす郷」認証米¹等の環境保全型農業をはじめとする取り組みも行われていて、トキは佐渡市の「地域のシンボル」として市民の間に定着している。その結果、2026年3月に環境省が公表した第5次レッドリストでは、絶滅の危険度が最も高い「絶滅危惧 IA 類」から「絶滅危惧 IB 類」へと引き下げられた²。このランクダウンは、20年近く続けられてきた野生復帰事業の成果といえる。

一方で、一つの地域に個体群が集中することは、環境収容量が限界となっていくことに加えて、鳥インフルエンザ等の感染症拡大や環境変動による絶滅リスクを伴うため、複数の地域での個体群の形成が課題とされてきた。環境省の「トキ野生復帰ロードマップ2025」においても、本州等でのトキの定着・繁殖を目指す方針が掲げられている³。これを受け、かつて1970年までトキが生息していた石川県において、本州初となる放鳥が計画され、2026年5月に羽咋市内での放鳥実施が決定した⁴。

¹ 佐渡市「佐渡市認証米『朱鷺と暮らす郷』とは？」

<https://www.city.sado.niigata.jp/site/sato/1165.html> (2026年3月22日閲覧)

² 環境省報道発表資料「第5次レッドリスト(鳥類及び爬虫類・両生類)の公表について(お知らせ)」(2026年3月17日)

https://www.env.go.jp/press/press_03312.html (2026年3月22日閲覧)

³ 環境省「トキ野生復帰ロードマップ2025の概要」

<https://www.env.go.jp/content/900491320.pdf> (2026年3月22日閲覧)

⁴ 石川県「トキをはぐむ環境をめざして」

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/sizen/toki/top.html> (2026年3月22日閲覧)

羽咋市は能登半島の基部に位置し、人口19,300人（2026年3月1日時点）を有する自治体である。能登半島は本州における最後の野生トキの生息地であり、熱心な保護活動が行われてきた歴史を持つなど、トキとのゆかりが深い地域である。本州初の放鳥地として羽咋市南潟地区が選ばれた背景には、トキの餌場となる十分な水田面積が確保できる場所⁵であることや、また、羽咋市が2025年7月に「オーガニックビレッジ宣言」⁶を行う等、有機農業を推進していることも挙げられる。さらに、能登半島地震からの復興のシンボルとしても、半世紀ぶりに能登の大空を舞うトキの姿が見られることに地元からの大きな期待が寄せられている⁷。

これまで筆者は佐渡市民を対象としたトキの野生復帰に関する意識調査を継続して実施してきた。直近に実施した2024年の調査結果⁸では、佐渡市民は市内での生息を前提としつつも、本州での放鳥を肯定的に捉えていることが示され、筆者は、佐渡市にとって他地域で実施される放鳥は野生復帰事業の先進地としての新たな価値や広域連携の機会であると考察した（本田 2025）。野生復帰事業が本州での放鳥という新たな段階を迎えるにあたり、本州初の放鳥地となる石川県羽咋市では地域住民がトキおよび野生復帰をどのように認識しているかを把握することは、今後の事業の展開において極めて重要である。

そこで本報告では、2026年1月下旬から2月にかけて羽咋市民を対象に実施した「トキの野生復帰に関する意識調査」の結果を整理し、報告する。本州初の野生復帰事業に対する羽咋市民の賛否、期待や不安を含めた社会的受容の現状を明らかにすることで、今後の円滑な合意形成や、トキをシンボルとした地域づくり、および関係行政機関の施策立案に向けた基礎的知見を提供することを目的とする。

2. 方法

筆者はこれまで佐渡市の協力の下、2008年、2009年、2014年、2019年、2024年に佐渡市民を対象としたアンケート調査を実施してきた。特に2008年の調査は放鳥前段階で実施したアンケート調査であり、野生復帰の賛成は6割、トキは「佐渡を象徴するもの」として肯定的に捉えられていた（本田 2009）。

今回の羽咋市での調査についても、佐渡市で実施してきたアンケート調査の方法を踏襲する形で実施することとした。具体的には羽咋市産業建設部農林水産課の協力を得て、住民基本台帳から無作為抽出した市内に居住する20歳から79歳の男女1,000人を対象に、2026年1月26日から2月27日まで、郵送法によりアンケート調査を実施した。最終的な回収数は540通であり、回収率は54.1%となった⁹。無作為抽出による市民アンケートとしては一定の高い回収率を確保できた。前述の佐渡市で実施した放鳥前段階の調査（回収率56.7%）ともほぼ同水準であり、十分な回収率であったといえる。

アンケート票は全24問で構成され、表-1に示した。表中の回答形式におけるSAは単一回答（Single Answer）、MAは複数回答（Multiple Answer）を示す。基本的には佐渡市で実施してきた質問項目を踏襲したが、羽咋市の状況をふまえて選択肢を追加したほか、農林水産課から依頼のあった質問項目も盛り込んだ。

⁵ 羽咋市「市長の日記 11(2025.8)」(2025年7月25日)

https://www.city.hakui.lg.jp/soshiki/soumubu/hisyo/6/1_1/16620.html（2026年3月22日閲覧）

⁶ 羽咋市「オーガニックビレッジ宣言について」(2025年7月1日)

<https://www.city.hakui.lg.jp/soshiki/sangyoukensetsubu/nourinsuisan/2/1/16566.html>（2026年3月22日閲覧）

⁷ 能登地域トキ放鳥受入推進協議会「設立の経緯等」

<https://www.pref.ishikawa.jp/sizen/toki/about/index.html>（2026年3月22日閲覧）

⁸ 直近の佐渡市民を対象にしたアンケート調査は2024年10月に実施した。調査の結果は高橋・本田（2025）にて報告している。

⁹ 宛先不明や受け取り拒否等での理由で返送されてきた件数が2件あるため、998通をもとに回収率を算出した。

質問結果については単純集計にて報告する。また、選択した理由を問う自由記述のある質問結果については生成AI（「Gemini 3.1 Pro」）を用いて内容の要約を行った。要約作業は、インターネット経由でアクセスし、実施した。作業日は2026年3月23日である。出力結果については、筆者が原文と照合し、内容に相違がないことを確認した。要約作業においては、他の要約結果からの文脈の混同などの影響が出ないように、それぞれ独立したチャット（セッション）を作成し、作業を実施した。具体的なプロンプトは以下で統一した。

「以下のアンケート調査の回答データを要約してください。これは、●●●に関する質問で「●●●」と回答した●●●人の理由についての自由記述となります。

【要約の条件】

- ・箇条書きなどの項目分けは一切行わず、1つの繋がった文章（段落）として構成してください。全体で字数は最大300字程度としてください。
- ・文末はすべて「だ・である」調に統一してください。
- ・論文の記述としてそのまま使用できるような、客観的で論理的な文体を保ってください。
- ・AI自身の推測、一般的な背景知識、個人的な見解は一切追加せず、提供されたテキストのみに基づいて要約してください。
- ・回答者のニュアンスを損なわないよう、記述の中に頻出するキーワードを可能な限り活かして構成してください。」

表-1 アンケート調査票の構成

質問番号	質問内容	回答形式
1	回答者の年代・性別	選択式(SA)
2	回答者の居住地・羽咋市内の居住年数	選択式(SA) * 地区は自由記述
3	羽咋市内への定住意思	選択式(SA)
4	回答者の職業	選択式(MA)
5	「羽咋市を象徴するもの」のイメージ	自由記述
6	「羽咋市の自然」のイメージ	自由記述
7	お米を購入する際に最も重視すること	選択式(SA)
8	環境問題への関心の有無	選択式(SA)
9	羽咋市の環境課題	選択式(SA)
10	4種の鳥の写真からトキを選ぶ	選択式(SA)
11	トキのイメージ	選択式(SA)
12	かつて(昭和45年以前)のトキ目撃の有無	選択式(SA)
13	トキの保護に関する認知	選択式(SA) * 一部の質問で自由記述
14	野生復帰の賛否・理由	選択式(SA) * 理由はMA
15	野生復帰についての心配・内容	選択式(SA) * 内容はMA
16	野生復帰についての期待・内容	選択式(SA)
17	トキの羽咋市内での生息希望・理由	選択式(SA)
18	羽咋市内でのトキの野生復帰が成功するために何かをする意思・内容	選択式(SA) * 内容はMA
19	羽咋市内でのトキ保護のための環境教育や啓発活動	選択式(SA)
20	将来のトキによる農業被害・対策	選択式(SA)
21	羽咋市内で生息するトキの責任主体・理由	選択式(SA) * 理由は自由記述
22	今後のトキの野生復帰の実施のあり方について	選択式(SA)
23	回答者自身のトキの位置づけ	選択式(SA)
24	羽咋市の課題	選択式(SA)

3. 結果

(1) 回答者の属性と代表性の検討

回答者の基本属性（年代・性別・居住地区）を、2026年1月1日時点の住民基本台帳データと比較する形で表-2に整理し、本調査の回答者の代表性について検討した。

年代別構成は、住民基本台帳の構成と比較すると、20歳代（7.4%）および30歳代（5.9%）が低く、70歳代（35.6%）の割合が高かった。カイ二乗検定の結果、年代分布には有意差が認められた（ $\chi^2=35.52$, $p < 0.01$, d. f. =5）。性別については、男性が44.3%、女性が55.7%であり、住民基本台帳の構成（男性49.8%、女性50.2%）と比較して女性の回答割合（55.7%）が有意に高かった（ $\chi^2=5.51$, $p < 0.05$, d. f. =1）。一方、居住地区の分布（羽咋地区29.0%、邑知地区16.0%等）については、住民基本台帳の人口分布とほぼ一致しており、有意差は認められなかった（ $\chi^2=8.54$, $p > 0.05$, d. f. =9）。以上から、本調査の回答者は、若年層が低く、高年齢層と女性の回答割合が高い傾向が見られるものの、居住地区については代表性を有しているといえる。

羽咋市内での居住歴は「生まれてからずっと（43.0%）」と「20年以上（39.1%）」を合わせて8割を超えており、今後の定住意思についても93.3%が「はい」と回答した（表-3）。回答者の職業（表-4、複数回答）は「勤め人（会社員など）（32.1%）」が最も多く、次いで「無職（25.7%）」、「アルバイト、パートタイム（11.9%）」、「家事専業（10.4%）」の順であった。「農業」従事の割合は6.0%であった。

表-2 回答者の年代・性別・居住地区と代表性の検討

選択肢	回答者		住民基本台帳	
	人数	(%)	人数	(%)
20歳代	35	(7.4)	1484	(10.6)
30歳代	28	(5.9)	1416	(10.1)
40歳代	57	(12.1)	2075	(14.8)
50歳代	81	(17.2)	2795	(20.0)
60歳代	103	(21.8)	2603	(18.6)
70歳代	168	(35.6)	3624	(25.9)
回答者数	472	(100.0)	13997	(100.0)
男性	216	(44.3)	6968	(49.8)
女性	272	(55.7)	7031	(50.2)
回答者数	488	(100.0)	13999	(100.0)
羽咋地区	152	(29.0)	4069	(29.1)
邑知地区	84	(16.0)	1937	(13.8)
千里浜地区	57	(10.9)	1666	(11.9)
富永地区	55	(10.5)	1420	(10.1)
余喜地区	47	(9.0)	1147	(8.2)
粟ノ保地区	40	(7.6)	1467	(10.5)
一ノ宮地区	35	(6.7)	861	(6.2)
越路野地区	23	(4.4)	618	(4.4)
上甘田地区	23	(4.4)	510	(3.6)
鹿島路地区	8	(1.5)	304	(2.2)
回答者数	524	(100.0)	13999	(100.0)

表-3 市内の居住歴と今後の市内の定住意思

	選択肢	人数	(%)
市内の居住歴	生まれてからずっと	229	(43.0)
	3年未満	27	(5.1)
	3年以上5年未満	8	(1.5)
	5年以上10年未満	19	(3.6)
	10年以上20年未満	41	(7.7)
	20年以上	208	(39.1)
	回答者数	532	(100.0)
市内の定住意思	はい	486	(93.3)
	いいえ	35	(6.7)
	回答者数	521	(100.0)

表-4 職業（複数回答含む）

選択肢	人数	(%)
勤め人（会社員など）	170	(32.1)
無職	136	(25.7)
アルバイト，パートタイム	63	(11.9)
家事専業	55	(10.4)
自営業（商業・工業・サービス業）	34	(6.4)
農業	32	(6.0)
公務員，団体職員	24	(4.5)
学生	9	(1.7)
教員	5	(0.9)
農業以外の1次産業（林業，水産業）	2	(0.4)
その他	10	(1.9)
回答者数	530	(—)

(2) 羽咋市に関する認識

「羽咋市を象徴するもの」（表-5）では、「千里浜・千里浜海岸（35.3%）」および「千里浜ドライブウェイ（26.0%）」が上位を占め、次いで「UFO（19.5%）」が記述された。「羽咋市の自然」としてイメージする場所（表-6）も同様に「千里浜・千里浜海岸（35.0%）」や「海・海岸線・砂浜（16.1%）」が多数を占め、「水田・農地（10.1%）」や「邑知潟（9.9%）」がそれに続いた。

環境問題への関心については86.4%の回答者が「関心あり」であり、羽咋市の環境課題としては「農地の減少・荒廃（37.2%）」が最も多く選択された（表-7）。また、羽咋市が抱える様々な課題について12テーマを選定し、その重要度を4段階（1：ほとんど重要ではない、2：あまり重要ではない、3：やや重要、4：非常に重要）で評価してもらった結果、「自然災害への対策（3.60）」や「人口の減少（3.55）」が上位に挙がった（表-8）。

なお、日常적으로お米を購入する際に重視する点としては「食味・おいしさ（30.1%）」が最も多く、本人・家族・知人が農業従事という理由で「お米は購入しない（18.6%）」層も一定数存在した（表-9）。

表-5 「羽咋市を象徴するもの」と聞いて最もイメージするもの

選択肢	人数	(%)
千里浜・千里浜海岸	174	(35.3)
千里浜ドライブウェイ	128	(26.0)
海・砂浜・ビーチ	13	(2.6)
UFO	96	(19.5)
コスモアイル羽咋	13	(2.6)
サンダーくん	3	(0.6)
宇宙人	2	(0.4)
気多大社	11	(2.2)
妙成寺	8	(1.6)
白鳥	6	(1.2)
自然	5	(1.0)
トキ	4	(0.8)
田んぼ・田園・里山	3	(0.6)
ラクナ羽咋	3	(0.6)
羽咋という地名	3	(0.6)
神子原米	2	(0.4)
その他（1件のみの回答）	19	(3.9)
回答者数	493	(100.0)

表-6 「羽咋市の自然」と聞いて最もイメージする場所

選択肢	人数	(%)
千里浜・千里浜海岸	174	(35.0)
千里浜渚ドライブウェイ	42	(8.5)
海・海岸線・砂浜	80	(16.1)
水田・田んぼ・田園・田畑・棚田・農村農地	50	(10.1)
里山・里山里海・海と山	14	(2.8)
神子原・神子原の棚田	18	(3.6)
眉丈山・眉丈台・眉丈台自然緑地公園	11	(2.2)
山	9	(1.8)
邑知潟	49	(9.9)
邑知平野	8	(1.6)
ハクチョウ・コハクチョウ	6	(1.2)
日本海	4	(0.8)
トキ	4	(0.8)
永光寺	3	(0.6)
気多大社(「入らずの森」)	3	(0.6)
神社仏閣	3	(0.6)
米	3	(0.6)
碁石ヶ峰	2	(0.4)
柴垣の長手島	2	(0.4)
その他(1件のみの回答)	12	(2.4)
回答者数	497	(100.0)

表-7 環境問題への関心の有無と羽咋市の環境課題

	選択肢	人数	(%)
環境問題への関心の有無	関心あり	443	(86.4)
	関心なし	70	(13.6)
	回答者数	513	(100.0)
羽咋市の環境課題	農地の減少・荒廃	189	(37.2)
	ごみの不法投棄・ポイ捨て	69	(13.6)
	河川の整備	68	(13.4)
	自然環境の減少・開発	60	(11.8)
	野生動物による被害	52	(10.2)
	ごみのリサイクル	36	(7.1)
	その他	34	(6.7)
	回答者数	508	(100.0)

表-8 羽咋市の課題：平均値と標準偏差

課題	回答者(n=485)	
	平均値	標準偏差
自然災害への対策	3.60	0.61
人口の減少	3.55	0.67
医療・福祉サービスの充実	3.47	0.59
雇用の確保・就労支援	3.42	0.63
子どもの教育環境の充実	3.39	0.69
自然環境の整備	3.23	0.68
ごみ・リサイクル制度の充実	3.23	0.69
商工業の振興	3.22	0.66
公共交通・道路の整備	3.21	0.72
農林漁業の振興	3.16	0.64
鳥獣被害対策	3.12	0.68
観光客の増加	2.99	0.75

表-9 お米を購入する際に重視すること

選択肢	人数	(%)
食味・おいしさ	159	(30.1)
お米は購入しない	98	(18.6)
価格	93	(17.6)
産地・銘柄	83	(15.7)
安全性	43	(8.1)
特に重視する項目はない	39	(7.4)
その他	13	(2.5)
回答者数	528	(100.0)

(3) トキに関する意識

トキの形態に対する認知を確認するため、4種の鳥の写真（図-1）からトキを選択する設問を設けたところ、76.4%が正解を選択した（表-10）。また、「トキを象徴するもの」と聞いてイメージするものとしては「佐渡（36.1%）」、「トキ色（22.6%）」、「絶滅（15.6%）」の順となった（表-11）。

トキ保護に関する認知状況（表-12）では、「絶滅のおそれがあること」は96.4%が認知しており、「佐渡市で放鳥が実施されてきたこと」は79.4%、「今年（2026年）羽咋市内で放鳥予定であること」は84.9%と、いずれも高い認知度を示した。ただし、かつて（1970年以前）野外でトキを目撃した経験があることの割合は7.0%であった。また、羽咋市でのトキの保護活動に尽力した人物（表-13）については、回答者の97.4%が「村本義雄氏」を挙げた。

回答者にとってトキが意味することがら（表-14）については、「貴重な鳥（28.2%）」が最も多く選ばれ、「豊かな環境の象徴やバロメータ（15.2%）」、「一度絶滅した鳥（14.5%）」、「羽咋市の誇り・象徴・シンボル（12.0%）」が続いた。

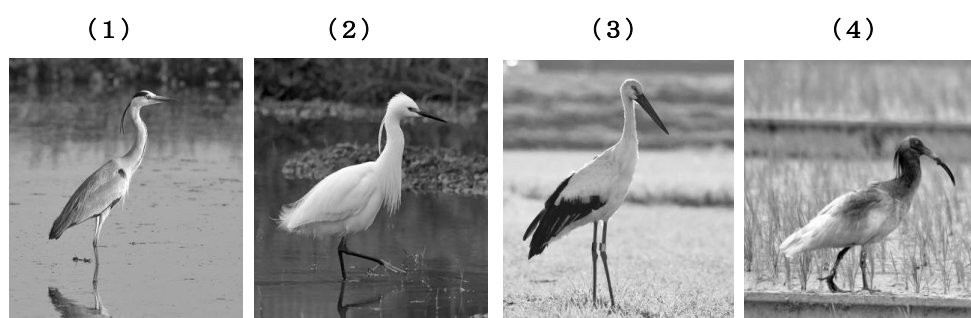


図-1 アンケート調査で質問した「4種の写真」¹⁰

表-10 トキの写真の選定

選択肢	人数	(%)
(1)アオサギ	12	(2.3)
(2)コサギ	67	(13.0)
(3)コウノトリ	43	(8.3)
(4)トキ（正解）	395	(76.4)
回答者数	517	(100.0)

表-11 「トキを象徴するもの」と聞いて最もイメージするもの

選択肢	人数	(%)
佐渡	190	(36.1)
トキ色	119	(22.6)
絶滅	82	(15.6)
美しい／きれい	29	(5.5)
自然環境	27	(5.1)
国際保護鳥	23	(4.4)
野生復帰／放鳥	16	(3.0)
能登	14	(2.7)
ノリ	7	(1.3)
大空を飛ぶ	6	(1.1)
中国	3	(0.6)
アカリ	1	(0.2)
害鳥	1	(0.2)
その他	9	(1.7)
回答者数	527	(100.0)

表-12 トキに関する認知

質問	人数	(%)
かつて（1970年以前）トキを野外で目撃したことがある	37	(7.0)
トキが絶滅のおそれがあることの認知	510	(96.4)
新潟県佐渡市においてトキの放鳥が実施されてきたことの認知	420	(79.4)
今年（2026年）羽咋市内でトキの放鳥が実施予定であることの認知	449	(84.9)
回答者数	529*	

*「かつての目撃」の質問の回答者数は528人となる。

¹⁰ アオサギ・コサギ・コウノトリの写真提供は伊崎実那氏、トキは石川県となる。

表-13 トキの保護活動に尽力された人（自由記述）

	人数	(%)
村本義雄氏	340	(97.4)
岡本孝二氏	5	(1.4)
西屋馨氏	5	(1.4)
幸正敬一氏	3	(0.9)
濱田栄治氏	3	(0.9)
川口氏	3	(0.9)
野上達也氏	1	(0.3)
宇治金太郎氏	1	(0.3)
井戸氏	1	(0.3)
金子氏	1	(0.3)
高野氏	1	(0.3)
その他	3	(0.9)
回答者数	349	(—)

表-14 回答者にとっての「トキ」の意味することから

選択肢	人数	(%)
貴重な鳥	150	(28.2)
豊かな環境の象徴やバロメータ	81	(15.2)
一度絶滅した鳥	77	(14.5)
羽咋市の誇り・象徴・シンボル	64	(12.0)
能登半島の誇り・象徴・シンボル	60	(11.3)
別に何も思わない	28	(5.3)
他の生きものと一緒	27	(5.1)
羽咋市の活性化の起爆剤	27	(5.1)
佐渡市の誇り・象徴・シンボル	7	(1.3)
農作物を販売するうえでの付加価値	3	(0.6)
経済効果を生み出すもの	1	(0.2)
苗を踏み倒す害鳥	0	(0.0)
世話のかかるもの／面倒なもの	0	(0.0)
その他	7	(1.3)
回答者数	532	(100.0)

(4) 野生復帰に関する認識

羽咋市内での野生復帰に対する賛否（表-15）では、「おおいに賛成（46.7%）」と「どちらかといえば賛成（30.5%）」を合わせて77.2%が賛意を示した。賛成の理由は「羽咋市の活性化になるから（53.3%）」、「もともと野生の鳥だから（40.6%）」、「環境にとっていいことだから（39.4%）」が上位であった。一方、「どちらともいえない」と回答した層（21.1%）の理由は、「野生復帰がうまくいくかわからないから（50.0%）」が最多で、次いで「自分の生活に関係があるのかわからないから（26.4%）」、「トキに興味・関心がないから（22.7%）」となった。さらに、「どちらかといえば反対（1.1%）」および「おおいに反対（0.6%）」を合わせた反対層（計1.7%）にその理由を尋ねたところ、「野生復帰なんて無理／成功しないと思うから（44.4%）」、「農業に被害を与えるかもしれないと思うから（33.3%）」、「税金の無駄だ／他の施策に税金をまわすべきだと思うから（22.2%）」などが選択された。

野生復帰への期待の有無では、「期待あり（72.9%）」が多数を占め、期待の内容は「自然環境の復元（54.2%）」に回答が集中していた（表-16）。一方、野生復帰への心配の有無についても「心配する」割合が6割に達し、その内容は「野生に帰すことが成功するかどうか（76.5%）」が突出し、「見物客のポイ捨て等のマナー（33.3%）」、「農業面での心配（22.5%）」が続いた（表-17）。

羽咋市内での生息希望については、70.9%が「生息してほしい」と回答し、理由としては「自然環境が豊かであることを示すから（30.2%）」や「もともとトキが生息していたから（25.4%）」が多く選ばれた（表-18）。羽咋市内での野生復帰が成功するために何かする意思が「ある」と答えた割合は67.0%であった。具体的な行動（複数回答）としては、「トキを大事に思うようにする（59.3%）」や「環境に配慮した生活を実践する（ごみ減量、省エネ等）（44.7%）」といった日常的な意識が上位を占めた。さらに、「トキの目撃情報を提供する／モニタリング調査に協力する（20.8%）」、「農業をできるだけ使わない／農薬をできるだけ使っていない作物を買う（18.2%）」、「トキの生息地づくりに協力する（16.2%）」、「トキを活かした経済活動に協力する（13.4%）」など、市民参加型の保護活動や環境に配慮した消費行動への具体的な協力意思も一定数選択された（表-19）。

将来的にトキが農業に被害を与えると思うかについては、「わからない（67.4%）」が最多となった。被害が深刻な場合の適切な対応について、「はい」および「わからない」と回答した層に尋ねたところ、「被害がまだ発生していないので現段階で議論する必要はない（43.8%）」や「被害を受けた農家への金銭的補償（26.7%）」が上位を占めた（表-20）。

表-15 羽咋市内での野生復帰についての賛否と「賛成」、「どちらともいえない」、あるいは「反対」理由

	選択肢	人数	(%)
賛否	おおいに賛成	248	(46.7)
	どちらかといえば賛成	162	(30.5)
	どちらともいえない	112	(21.1)
	どちらかといえば反対	6	(1.1)
	おおいに反対	3	(0.6)
		回答者数	531
「賛成」理由*	羽咋市の活性化になるから	218	(53.3)
	もともと野生の鳥だから	166	(40.6)
	環境にとっていいことだから	161	(39.4)
	トキにとっていいことだから	115	(28.1)
	経済効果を生み出せるから	40	(9.8)
	農業にとっていいことだから	33	(8.1)
	観光客が増えるから	33	(8.1)
	佐渡市に生息するトキを見て、肯定的な感想を持ったから	25	(6.1)
	その他	17	(4.2)
	回答者数	409	(—)
「どちらともいえない」理由*	野生復帰がうまくいかかわからないから	55	(50.0)
	自分の生活に関係があるかわからないから	29	(26.4)
	トキに興味・関心がないから	25	(22.7)
	賛成・反対の気持ちを両方感じているから	16	(14.5)
	その他	12	(10.9)
	回答者数	110	(—)
「反対」理由*	野生復帰なんて無理／成功しないと思うから	4	(44.4)
	農業に被害を与えるかもしれないと思うから	3	(33.3)
	税金の無駄だ／他の施策に税金をまわすべきだと思うから	2	(22.2)
	トキに気をつかわなければならないと思うから	2	(22.2)
	自分に何のメリットもないから	1	(11.1)
	佐渡市に生息するトキを見て、否定的な感想を持ったから	1	(11.1)
	トキを目的に観光客などのよそ者が大勢来るから	0	(0.0)
	その他	2	(22.2)
	回答者数	9	(—)

*複数回答含む。

表-16 野生復帰についての期待の有無と期待する内容

	選択肢	人数	(%)
期待の有無	期待あり	382	(72.9)
	期待なし	142	(27.1)
	回答者数	524	(100.0)
期待する内容	自然環境の復元	207	(54.2)
	地域経済の振興	64	(16.8)
	羽咋市としてのまとめり	38	(9.9)
	観光客の増加	33	(8.6)
	農業の活性化	31	(8.1)
	その他	9	(2.4)
	回答者数	382	(100.0)

表-17 野生復帰の心配の有無と心配内容

	選択肢	人数	(%)
心配の有無	心配する	324	(61.4)
	心配していない	125	(23.7)
	何も思わない	79	(15.0)
	回答者数	528	(100.0)
心配の内容*	野生に帰すことが成功するかどうか心配	248	(76.5)
	見物客がたくさん来て、ゴミのポイ捨てなど問題を起すのではないかと	108	(33.3)
	農業面での心配（農薬や除草剤を使えなくなる、苗が踏まれるなどの心配）	73	(22.5)
	鳥インフルエンザ等が発生するのではないかと	41	(12.7)
	日常生活において、トキに気をつかわなければならない	30	(9.3)
	今後、周辺の開発ができないのではないかと	20	(6.2)
	その他	16	(4.9)
	回答者数	324	(—)

*複数回答含む。

表-18 羽咋市内での生息希望と「生息してほしい」理由

	選択肢	人数	(%)
生息希望	生息してほしい	378	(70.9)
	生息してもらいたくない	5	(0.9)
	どちらでもいい	134	(25.1)
	関心がない	16	(3.0)
	回答者数	533	(100.0)
生息してほしい理由	自然環境が豊かであることを示すから	114	(30.2)
	もともとトキが生息していたから	96	(25.4)
	羽咋市の誇り・象徴・シンボルとなるから	72	(19.0)
	トキが見たいから	52	(13.8)
	羽咋市の活性化につながるから	31	(8.2)
	経済効果を生み出すから	5	(1.3)
	その他	8	(2.1)
	回答者数	378	(100.0)

表-19 羽咋市内でのトキの野生復帰が成功するために何かする意思の有無と「何かする」内容

	選択肢	人数	(%)
何かする意思の有無	意思あり	351	(67.0)
	意思なし	173	(33.0)
	回答者数	524	(100.0)
「何かする」内容*	トキを大事に思うようにする	208	(59.3)
	環境に配慮した生活を実践する（ゴミ減量、省エネ等）	157	(44.7)
	トキの目撃情報を提供する／モニタリング調査に協力する	73	(20.8)
	農薬をできるだけ使わない／農薬をできるだけ使っていない作物を買う	64	(18.2)
	トキの生息地づくりに協力する（田んぼ・湿地・里山等）	57	(16.2)
	トキを活かした経済活動に協力する（トキ関連商品の販売・購入等）	47	(13.4)
	その他	6	(1.7)
	回答者数	351	(—)

*複数回答含む。

表-20 将来トキが農業に被害を与えると思うか、また被害が深刻な場合の適切な方法

	選択肢	人数	(%)
将来被害を与える と思うか	はい	49	(9.4)
	いいえ	122	(23.3)
	わからない	353	(67.4)
回答者数		524	(100.0)
被害が深刻な場合の 適切な方法	被害がまだ発生していないので現段階で議論する必要はない	169	(43.8)
	被害を受けた農家への金銭的補償	103	(26.7)
	何もするべきではない	32	(8.3)
	追い払う（来ないようにする）	24	(6.2)
	関心・興味がない	21	(5.4)
	捕獲する	11	(2.8)
	駆除を行う	2	(0.5)
	その他	24	(6.2)
	回答者数	386	(100.0)

今後羽咋市内に生息するトキに対する責任主体としては「環境省（国）（33.2%）」、「石川県（19.9%）」、「羽咋市（17.0%）」の順となり（表-21）、それらの理由には、国家プロジェクトである点や、自治体・個人では負担や補償に限界がある点が挙げられていた（表-22）。

表-21 羽咋市内で生息するトキの責任主体

選択肢	人数	(%)
環境省（国）	170	(33.2)
石川県（行政）	102	(19.9)
羽咋市（行政）	87	(17.0)
誰も担わなくていい	49	(9.6)
羽咋市民全体	44	(8.6)
国民全体	28	(5.5)
石川県民全体	15	(2.9)
周辺の住民	6	(1.2)
その他	11	(2.1)
回答者数	512	(100.0)

表-22 責任主体で選ばれた上位3つの回答理由（Gemini 3.1 Pro を使った要約）

選択肢	理由の要約
環境省 （国）	93人：まず、トキの野生復帰や放鳥が国の施策や国家プロジェクトとして推進されており、事業の決定および実施主体が国であることが挙げられている。次に、トキが絶滅危惧種や天然記念物などの貴重な鳥であり、その保護や自然環境の整備は地域単独ではなく、日本全体で取り組むべき課題であると認識されている。また、万が一の被害における補償問題や予算の確保など、個人や市・県といった地方自治体レベルでは負担が大きく荷が重いため、対応が困難であるという意見も多数を占めている。加えて、不測の事態に備えた手厚いバックアップや、専門家による知識が不可欠であることも理由として述べられている。
石川県 （行政）	45人：大きく3つの傾向が確認できる。第一に、保護や事故への対応には多額の資金が必要であり、行政規模が小さい羽咋市や周辺住民のみでは対応や負担に「限界がある」「荷が重い」とする能力的な理由である。第二に、野生化したトキの生息や飛来は広範囲に及ぶため、羽咋市単独の問題ではなく、県全体での広い視野による見守りが必要だとする地理的理由である。第三に、トキが石川県の鳥（象徴）であることに加え、県や知事が主体となって放鳥を推進・誘致した事業である以上、被害に対する補償も含めて県が事業の責任を負うべきであるという推進主体としての理由である。
羽咋市 （行政）	45人：主に事業の主体性と市民の対応能力の限界が指摘されている。多くの回答は、市が放鳥を企画し決定した行政主導の取り組みである以上、責任の所在を市に明確化すべきだと述べている。また、トキに関する専門知識の不足や事故発生時の対応、予算の観点から、個人や市民レベルで責任を負うのは困難であるとの認識も示されている。加えて、市内で生息する身近な地元行政として市民の代表や窓口となり、迅速かつ公平な対応を行う点や、観光のシンボルとして活用する上でも市の積極的な関与が必要であると結論づけている。

今後の野生復帰事業のあり方については、「佐渡と本州と併せて実施 (37.8%)」および「佐渡で継続、将来は本州でも実施 (36.6%)」と、本州での展開を肯定する意見が7割以上を占めた (表-23)。

表-23 今後の野生復帰実施のあり方

選択肢	人数	(%)
佐渡と本州と併せて実施	196	(37.8)
佐渡で継続, 将来は本州でも実施	190	(36.6)
厳密に考える必要はない	43	(8.3)
関心・興味がない	37	(7.1)
今後も佐渡のみで実施	18	(3.5)
今後は佐渡ではなく本州で実施	18	(3.5)
これ以上実施する必要はない	3	(0.6)
その他	14	(2.7)
回答者数	519	(100.0)

(5) トキ保護に関する環境教育と啓発活動についての認識

羽咋市内でのトキ保護に関する環境教育や啓発活動を行うべき対象 (1番目に選択した回答) としては、「羽咋市全域の住民 (42.4%)」が最も多く、次いで「生息地周辺の住民 (17.1%)」、「国民全体 (15.9%)」が挙げられた (表-24)。

表-24 羽咋市内でのトキ保護に関する環境教育や啓発活動の対象

選択肢	1 番目	(%)	2 番目	(%)
生息地周辺の住民	89	(17.1)	37	(7.9)
羽咋市全域の住民	221	(42.4)	90	(19.1)
羽咋市全域の子ども	47	(9.0)	73	(15.5)
行政職員	24	(4.6)	33	(7.0)
羽咋市内の農業従事者	28	(5.4)	56	(11.9)
観光ガイド・観光業者	9	(1.7)	25	(5.3)
観光客	16	(3.1)	70	(14.9)
国民全体	83	(15.9)	85	(18.1)
その他	4	(0.8)	1	(0.2)
回答者数	521	(100.0)	470	(100.0)

環境教育・啓発活動で取り上げる内容については、「トキの生態・特徴 (22.2%)」が最多となり、「トキを含む羽咋の自然環境 (16.1%)」、「環境省、石川県、羽咋市によるトキ保護政策 (15.3%)」がそれに続いた (表-25)。また、効果的な環境教育・情報発信の方法としては、「紙媒体の広報誌を通じた定期的な情報の発信 (21.6%)」が最も高く、次いで「インターネットのサイトを通じた定期的な情報の発信 (17.9%)」、「ポスターやチラシ、ステッカーなどを活用した広報活動 (16.9%)」、「学校の授業の中での学習・体験活動 (15.7%)」が上位に挙がり、日常的かつ定期的な情報発信の方法や学校教育を活用することが求められている傾向が見られた (表-25)。

羽咋市内でのトキ保護に関する環境教育や啓発活動の必要性について尋ねたところ、全体の74.2%が環境教育や啓発活動は「必要 (はい)」であると回答し、高い必要性が認識されていた (表-26)。しかし、現状におけるそれらの活動の実施状況については、「十分に行われていると思う」との回答は4.2%にとどまり、「少し行われていると思う (34.1%)」が最多となる一方で、「あまり行われていないと思う (26.8%)」および「まったく行われていないと思う (4.4%)」を合わせて3割程度が現状の活動が不足していることを指摘しており、さらに「わからない」とする回答も30.5%存在した (表-26)。

表-25 羽咋市内でのトキ保護に関する環境教育や啓発活動の内容と方法

	選択肢	人数	(%)
内容	トキの生態・特徴	112	(22.2)
	トキを含む羽咋の自然環境	81	(16.1)
	環境省、石川県、羽咋市によるトキ保護政策	77	(15.3)
	トキの天敵や生息を脅かす外来種	57	(11.3)
	トキが生息している場所の情報	37	(7.3)
	佐渡市で取り組まれているトキ保護政策	37	(7.3)
	今後のトキの野生復帰計画の展望	26	(5.2)
	トキの飼育数および野生下での生息数	18	(3.6)
	トキを活かした地域活性化の取り組み	18	(3.6)
	トキと人との関わりの歴史	14	(2.8)
	トキと他の鳥との違いや見分け方	13	(2.6)
	水田やビオトープに生息する生きもの	4	(0.8)
	市民団体によるトキの保護活動	4	(0.8)
	その他	6	(1.2)
		回答者数	504
方法	紙媒体の広報誌を通じた定期的な情報の発信	111	(21.6)
	インターネットのサイトを通じた定期的な情報の発信	92	(17.9)
	ポスターやチラシ、ステッカーなどを活用した広報活動	87	(16.9)
	学校の授業の中での学習・体験活動	81	(15.7)
	トキに関するイベント・研修会・講習会の実施	73	(14.2)
	生息地整備などのボランティア活動	40	(7.8)
	トキの見学や観察	25	(4.9)
	その他	6	(1.2)
		回答者数	515

表-26 羽咋市内でのトキ保護に関する環境教育や啓発活動が市内で必要か、また行われていると思うか

	選択肢	人数	(%)
必要か	はい	386	(74.2)
	いいえ	13	(2.5)
	わからない	121	(23.3)
	回答者数	520	(100.0)
行われていると思うか	十分に行われていると思う	22	(4.2)
	少し行われていると思う	178	(34.1)
	あまり行われていないと思う	140	(26.8)
	まったく行われていないと思う	23	(4.4)
	わからない	159	(30.5)
	回答者数	522	(100.0)

4. 考察

以上の結果から、羽咋市内で実施が予定されているトキの放鳥への認知割合および賛成割合は高く、また、野生復帰への期待や市内でのトキの生息希望の割合も高いことから、本州初のトキ放鳥に向けた羽咋市民の社会的受容は一定程度の高さであることが明らかになった。そこで以下では、筆者が2008年に佐渡市において放鳥前段階で実施したアンケート調査の結果（本田 2009）と適宜比較しながら、羽咋市における住民意識の特徴と今後の課題について考察する。

(1) 野生復帰への肯定的な認識

羽咋市におけるトキの野生復帰への賛成割合は77.2%に達し、佐渡市での2008年の調査時点の賛成割合60.0%を上回る高い割合であった。佐渡市の調査では賛成理由として「もともと野生の鳥だから

(62.0%)という、野生復帰の意義を重視する動機が最多であったのに対し、羽咋市での調査では「羽咋市の活性化になるから(53.3%)」が最も多く選ばれた。先行して実施されている佐渡市での野生復帰の取り組みが、農作物の付加価値を含めて地域活性化に貢献したことを意識した回答結果といえる。

一方で、トキの野生復帰について具体的に期待する内容を見ると、「自然環境の復元(54.2%)」が最も多く選ばれているものの、「地域経済の振興(16.8%)」は比較すると低い割合である。また、回答者にとってのトキの捉え方も、「羽咋市の活性化の起爆剤(5.1%)」、「農作物を販売するうえでの付加価値(0.6%)」、「経済効果を生み出すもの(0.2%)」は少数にとどまった。このことから、トキの放鳥に直接的な経済的見返りを求めているわけではなく、野生復帰の取り組みやそれに伴う自然環境の保全が、結果として羽咋市内の活性化につながるという期待があるのではないかと推察される。

なお、自然環境については、環境復元への期待も示されている一方で、羽咋市の環境課題として「農地の減少・荒廃(37.2%)」が最も多く選ばれ、羽咋市の課題としても「自然災害への対策」の重要度の平均値が最も高かった。また、「羽咋市を象徴するもの」や『「羽咋市の自然」のイメージ』として、「千里浜」や「ドライブウェイ」が多く記述され、羽咋市の自然としての評価を得ている。トキの放鳥によって、羽咋市の自然環境の保全が今後進むことが期待されているということが窺える。

(2) 野生復帰成功への心配と「見物客のマナー」への懸念

トキの野生復帰に対する心配については、羽咋市(61.4%)よりも佐渡市(81%)の方が割合自体は高いが、羽咋市・佐渡市ともに内容としては「野生に帰すことが成功するかどうか」(羽咋76.5%、佐渡69%)が多数を占めた。これは、農業被害等への懸念(羽咋22.5%、佐渡34%)よりも、野生復帰の事業自体の成否を案じる感情が、放鳥前段階では共通して存在しているといえる。

一方で、羽咋市において特徴的なのは、「見物客のポイ捨て等の問題(33.3%)」が「農業面での心配(22.5%)」を上回り、多く挙げたことである。佐渡市では「農業面での心配」は34%、「見物客のポイ捨て等の問題」は14%であった。離島である佐渡市とは条件が異なり、既存の観光資源(千里浜ドライブウェイ等)を有する羽咋市においては、外部からの見物客増加に伴う生活環境や営農環境との摩擦が懸念として認識されていることが窺える。石川県をはじめとした関係団体で構成される「能登地域トキ放鳥受入推進協議会」では、今後のトキの放鳥に向けて「トキの観察マナー」を公開している¹¹。こうしたルール周知が不可欠であるが、実際に放鳥した後も、そのルールがきちんと機能することが必要である。

(3) 「地域のシンボル」化に向けた環境教育や啓発活動の課題

佐渡市では放鳥直前の段階の調査結果で、すでにトキが「佐渡を象徴するもの」のトップ(31%)であったが、現在の「羽咋市の象徴」は「千里浜」や「ドライブウェイ」、「UF0」が多く挙げられ、「トキ」は0.8%とごく少数である。そして、回答者にとってトキの認識では「貴重な鳥(28.2%)」が最も多く選ばれていた。佐渡市での調査では当時、「地域の誇り・象徴・シンボル」26%、「豊かな環境の象徴やバロメータ」19%、「貴重な鳥」18%であった。しかし、「羽咋市の誇り・象徴・シンボル(12.0%)」と「能登半島の誇り・象徴・シンボル(11.3%)」を合計すれば、「貴重な鳥」の回答割合とあまり変わらない割合となる。実際、羽咋市で放鳥されたトキは羽咋市内にとどまる個体もいれば能登半島に広く生息する個体も出てくることが予想される。したがって羽咋市だけではなく、広く能登半島のシンボルとして捉え

¹¹ 基本はトキを驚かせないようにやさしく静かに見守ることとし、車から降りずに観察する、繁殖期(2月～7月)は巣に近づかない、餌を与えない、農道や林道に駐車しない等が求められている。

能登地域トキ放鳥受入推進協議会「トキの観察マナー」

<https://www.pref.ishikawa.jp/sizen/toki/manner/index.html> (2026年3月26日閲覧)

ていく認識が今後どう変化していくのか注視することが必要である。

なお野生復帰にあたり、放鳥される生物種を「地域のシンボル」と捉えることは、先行して実施されている兵庫県豊岡市のコウノトリや佐渡市のトキの事例で報告されている。野生復帰の事業そのものは行政が主体となっていること、そして、対象となる生物は絶滅のおそれが高く、生態系の上位に位置する生物であることから、野生復帰が実施される地域の住民にとっては対象生物との共生が強制され、いわば「強いられた共生」となることが懸念される。しかし、豊岡市や佐渡市では、コウノトリやトキを「地域のシンボル」として活用することを通じて、コウノトリやトキが地域資源化され、野生復帰が住民に受け入れられてきたことが示されている（本田 2015）。すなわち、対象種の地域資源化は、野生復帰が成功するためのプロセスの1つとなっていると考えられる。

すでに羽咋市には、放鳥実施後にトキが「地域のシンボル」へと変容し得る基盤が存在する。その根拠は、本州最後の野生トキが生息していた地域であるという事実と、当時から地元住民による保護活動があった事実があることである。トキの保護活動に尽力した人物として、自由記述形式で、回答者の97.4%が「村本義雄氏」を挙げている。そして、放鳥賛成の理由（「もともと野生の鳥だから」40.6%）や生息希望の理由（「もともとトキが生息していたから」25.4%）が上位に挙がっていることは、単なる過去の生息記録ではなく、トキを見守り続けた地域の物語が継承されていることが推察される。

回答者の67.0%が羽咋市内での野生復帰の成功に向けて「何かする意思がある」と前向きな姿勢を示す一方で、内容としては「トキを大事に思うようにする（59.3%）」や「環境に配慮した生活を実践する（44.7%）」が多く選ばれ、「目撃情報の提供／モニタリング調査に協力する（20.8%）」や「農薬をできるだけ使わない／使っていない作物を買う（18.2%）」「トキの生息地づくりに協力する（16.2%）」といった実際の行動を伴う内容の回答割合は比較すると低い。

また、回答者の74.2%がトキ保護に関する環境教育・啓発活動の必要性を認める一方で、それらが「十分に行われている」との認識はわずか4.2%にとどまり、「少し行われていると思う（34.1%）」、「わからない（30.5%）」、「あまり行われていないと思う（26.8%）」が上位に選ばれていた。放鳥の実施にあわせて、今後環境教育・啓発活動が展開されていくことは予想されるが、学校教育や広報誌・インターネット上のサイトを通じて、トキの生態のみならず、市民がどのようなことができるのかについて情報発信を継続していくことが必要である。このような取り組みを通じて、トキを「貴重な鳥」から、羽咋市の「地域のシンボル」へと変容させる意識につながっていくことが期待される。

(4) 行政の責任と今後の野生復帰のあり方

羽咋市内に生息するトキに対する責任の所在について、「環境省（国）（33.2%）」や「石川県（19.9%）」、「羽咋市（17.0%）」が上位を占めた。佐渡市での2008年時点の調査では、「国（31.8%）」、「佐渡市民全体（22.2%）」、「佐渡市（11.9%）」であった。なお、羽咋市の調査では「羽咋市民全体」が8.6%であるが、直近の佐渡市での調査（2024年実施）では「佐渡市民全体」の選択割合は10.1%となっていることから、野生復帰されたトキの対応について、市民個人にはでき得ることに限界があるという認識があることが窺える。

また、今後の野生復帰のあり方として、「佐渡と本州と併せて実施（37.8%）」、「佐渡で継続、将来は本州でも実施（36.6%）」を合計すると7割を超える。今回の羽咋市での放鳥は本州初の放鳥となるが、羽咋市民は野生復帰を、佐渡市をはじめとする他地域と連携させるべきものとして認識しており、今後も本州の他地域でのトキの放鳥も計画されている中で¹²、羽咋市での放鳥実施を本州での展開の第

¹² 2027年には島根県出雲市での放鳥実施が計画されている。

読売新聞オンライン「野生復帰に向けたトキ放鳥、「本州」で初めて実施へ…5月末に石川で・500羽前後で安定の佐渡は見送り」<https://www.yomiuri.co.jp/science/20260226-GYT1T00430/>（2026年3月26日閲覧）

一歩として肯定的に受け入れる基盤が存在していると評価できる。

5. おわりに

本報告では、2026年5月に予定されている本州初のトキの放鳥に向けて、石川県羽咋市民を対象に実施したアンケート調査の結果を報告し、その受容の現状と課題について考察した。調査の結果、羽咋市民のトキ放鳥に対する賛成は7割を超え、事前の社会的受容の状況は高いことが確認できた。今後は、実際の放鳥の後に再度羽咋市でアンケート調査を実施し、トキの生息に伴って市民の意識がどのように変容していくかを継続的に追跡・分析していく予定である。本報告が、今後の円滑な合意形成とトキをシンボルとした地域づくりや広域的な野生復帰事業の推進に向けた一助となれば幸いである。

「はじめに」でも述べたように、2026年3月に環境省が公表したレッドリストにおいて、トキは「絶滅危惧 IA 類」から「絶滅危惧 IB 類」へと引き下げられた。これは国内で野生復帰が実施されてきたコウノトリのランクダウンと同様であり、これらの野生復帰の取り組みが成果を上げてきていることを意味する。一方で、今回のレッドリストでは身近な存在であったコサギやウミネコといった鳥類が新たに「絶滅危惧 II 類」に掲載されたことから、鳥類を取り巻く自然環境には依然として課題が多い。トキやコウノトリの野生復帰事業の根底には「生態系の復元」という大きな目標がある（羽山 2019）。これらの取り組みが特定の生物種の保護にとどまらず、他の多様な生き物の生息環境の改善へと波及していくことを強く期待したい。

6. 付記

羽咋市で実施したアンケート調査には、日本学術振興会の科学研究費補助金（基盤研究 B:23K22287）および大正大学地域構想研究所からの助成を用いました。調査にご協力いただきました羽咋市民の皆様、羽咋市産業建設部農林水産課の井戸様をはじめとする羽咋市役所の皆様、石川県生活環境部自然環境課トキ共生推進室の競様、山際様、環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室の鴛海様には厚く御礼申し上げます（ご所属については2026年3月時点の情報をもとに記載しております）。

また、本研究の設計等で多大なご助言をいただきました大正大学の高橋正弘先生、アンケート調査の入力作業に協力いただいた大正大学公共政策学科の学生4名（太田暖菜氏（2026年3月卒業）、内山晶未氏（2026年3月卒業）、丸田瞳悟氏（2026年3月卒業）、安彦匠翔氏）にも併せて感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 高橋正弘・本田裕子：佐渡市におけるトキ放鳥16年後の野生復帰事業をめぐる住民の意識調査について、地域構想、Vol.7、pp.5-17、2025.
- 2) 羽山伸一：野生動物問題への挑戦、東京大学出版会、2019.
- 3) 本田裕子：放鳥直前期におけるトキ放鳥への住民意識－佐渡市全域のアンケート調査から、東京大学農学部演習林報告、Vol.121、pp.149-172、2009.
- 4) 本田裕子：野生復帰事業における住民意識の比較を通じたコウノトリやトキの地域資源化について、環境情報科学論文集、Vol.29、pp.225-228、2015.
- 5) 本田裕子：佐渡市の住民によるトキの「地域のシンボル」視をめぐる考察、環境情報科学論文集、Vol.39、pp.348-354、2025.